

岐阜県警が個人情報漏洩

風力発電 反対派らの学歴・病歴

岐阜県大垣市での風力発電施設建設をめくり、同県警大垣署が事業者の中部電力子会社「シーテック」(名古屋市中)に、反対住民の過去の活動や関係のない市民運動家、法律事務所の実名を挙げ、連携を警戒するよう助言したうえ、学歴または病歴、年齢など計6人の個人情報漏らしていた。朝日新聞が入手した同社の内部文書でわかった。地方公務員法(守秘義務)違反にあたる可能性もある。▼33面 警察に憤り

大垣署が中電子会社へ

■大垣署とシーテックの主なやりとり

※シーテック作成の議事録から「署」が大垣署、「C」がシーテック

- 13年8月7日
(7月末に岐阜県大垣市内で風力発電について学ぶ勉強会があったこと)をお互いに確認
- 署 勉強会の主催者である三輪唯夫氏や松島勢至氏が風力発電に関わらず、自然に手を入れる行為自体に反対する人物であることをご存じか。
- C 何でも反対すると聞いている。
- 署 松島、三輪両氏は活発に自然破壊反対や希少動物保護の運動にも参画し、法律事務所の「ぎふコラボ」ともつながりを持っている。また、自然破壊につながることに敏感に反対する近藤ゆり子氏という人物が市内にいるが、ご存じか。60歳を過ぎているが、東京大学を中退しており、頭もいいし、しゃべりも上手であるから、このような人物とつながるとやっかいになると思われる。大々的な市民運動へと展開すると、御社の事業も進まないことになりかねない。今後、情報をやりとりすることで、平穏な大垣市を維持したいので協力をお願いします。
- 14年2月4日
署 松島氏がぎふコラボの後援会役員になった。風力発電事業に関して相談を行った気配がある。
- 5月26日
署 三輪氏は、ぎふコラボの事務局長と強くつながっており、そこから全国に(運動が)広がっていくことを懸念している。現在、事務局長は病気のため入院中であるので、すぐに次の行動に移りにくいと考えられる。
- 6月30日
署 近藤氏が、風力発電事業の反対活動に本腰を入れようである。反原発、自然破壊禁止のメンバーを全国から呼び寄せることを懸念している。
- C 新しい情報が入り次第、連絡する。

シーテックは大垣市上石津町と同県関ヶ原町に16基、最大出力4万8千ワットの風力発電施設の建設を計画。環境影響評価の手続き中だ。上石津町の上鍛冶屋地区(46戸)は2月、建設に伴う土砂崩れや低周波による健康被害などを懸念し、測量に伴う同社の立

守秘義務違反の可能性高い

安富薫・京都産業大学大学院法務研究科客員教授の「地方公務員法の守秘義務違反にあたる可能性が高い。そもそも、警察は入手した情報を漏らしてはいけない。今回は、一企業の活

ち入り反対を決議した。

朝日新聞が入手したのは、同社風力発電部の地域対応グループが大垣署警備課長らとの協議内容をまとめた「議事録」で、2013年8月7日、14年2月4日、5月26日、6月30日の4回分。

最初の13年8月7日付によると、中部電岐阜支店から「大垣署が事業概要の情報を必要としている」と連絡があり、同グループ長らが署を訪れた。同署警備課は、一部の反対住民を「自然に手を入れる行為に反対

する人物」とし、大垣市在住でダム反対などの運動家・近藤ゆり子さん(65)や、同市内の法律事務所「ぎふコラボ」との連携を心配していることを示した。

「大々的な市民運動へ展開すると事業も進まない」「平穏な大垣市を維持したい」などと、今後の情報交換を依頼。その際、近藤さんについて「60歳過ぎ」「東大中退」などと伝えた。その後も、警備課は「ぎふコラボ」事務局長の名前を教え、「病気で、次の行動が取りにくい」「5

月26日付)、「(反対)住民の一人が、ぎふコラボ後援会役員になった」(2月4日付)と教えていた。

反対住民で、上鍛冶屋地区の自治会長、三輪唯夫さん(65)は自らの活動を明らかにし、取材に「税金で住民を監視し、企業に情報を漏らすのか」と怒った。近藤さんらも強く反発してい

る。

シーテックの加藤広・地域対応グループ長は議事録の作成を認め、警察情報について「いろんなことを知っていた方が良い」、大垣署の牧村康弘副署長は「ノーコメント。治安のため情報を集め、第三者と共有することはある」と話した。(編集委員・伊藤智章、波井玄人)

企業肩入れ 警察に憤り

名指しの住民、抗議へ

岐阜県警漏洩

地域の問題に声を上げたら、監視されてしまうのか……。中部電力の子会社「シーテック」（名古屋市瑞穂区）が岐阜県大垣市で進める風力発電施設の建設にからみ、県警大垣署が反対住民や市民運動家らの個人情報などを同社に提供し、対策を協議していた。署に名指しされた人たちは一様に驚き、憤った。

▼1面参照



風力発電施設の建設が予定されている岐阜県大垣市上石津町と同県関ヶ原町の境の尾根筋。手前は大垣市立多良小学校

「暴力団扱い」「運動つぶし」

事務局長の女性(57)は「休職中」の体の不調まで明かされた法律事務所「ぎふコロポ」。反対住民の後援会役員就任など、関係者しか知らない情報もシーテックに告げられていた。所属する山田秀樹弁護士は「憲法違反。国家賠償を求めるほどの問題だ」と憤る。

大垣署が実名を挙げて、反対運動への連携を警戒した市民運動家・近藤ゆり子さん(65)や法律事務所「ぎふコロポ」(大垣市)の弁護士は、松島さんや三輪さんの共通の知人だ。だが、運動参加を求めてはいない。まず地元で反対の声を上げるのが先決だと考え、これまで4、5回、地区で勉強会を重ねてきた。

しかし、毎回、参加者は10人前後にとどまる。二十数年前、近所のゴルフ場開発に反対した時に比べ、盛り上げに苦労している。4月、上鍛冶屋地区の自治会長になった三輪さんは、私企業の活動に一方的に肩入れする警察の体質が信じられない。「地域の問題をまじめに考えようとしているだけなのに、なぜ税金を使ってまでして監視される、情報も漏らされるのか」。大垣署やシーテックに抗議する考えだ。

「警察は、ものすごい反対運動になるんじゃないかと、勝手に心配している。こっちがびっくりしちゃうよ」。風力発電施設の反対運動をしている大垣市上石津町上鍛冶屋地区の住職、松島勢至さん(62)は戸惑う。大垣署に名前を挙げられた1人だ。

警察があからさまに私企業への活動に協力し、企業側も平然としている様子が見える。私企業側も平然としている様子が見える。私企業側も平然としている様子が見える。

か、情報公開を要求したい」と語った。また、大垣署とのやりとりを記したシーテック作成の議事録で、事務局長は「病氣入院中」とされたが、実際は入院していない。この事務局長は「風力発電に何の意思表示もしていないのに、なぜ私の名前を警察が出すのか。しかも間違った情報を」と怒る。

これまでにダム建設反対などの運動にかかわってきた。用もないのに毎月、警察官が訪ねてきたり、デモの時に突然、名指しで話しかけられたりして、「監視」の圧力を日々感じてきた。「秘密保護法の問題がどんどん現実化している」(編集委員・伊藤智章、渋井玄人)

「私たちは、暴力団扱いですか。どんな情報を警察が集めているの

一方、大垣署に「このような人物とつながると、やっかいになる」と名指しさ

2014.7.24 朝日新聞名古屋本社版 33面

警察から教えてくれた

シートックの加藤広・地域対応グループ長は23日、朝日新聞の取材に応じた。岐阜県警大垣署警備課と協議し、有益だったと認めた。一問一答は次の通り。

——大垣署とのやりとりを記した議事録を作っているのか。はい。でもこれは社内資料だ。どこから出たのか。

——近藤ゆり子さんや法律事務所「ぎふコロポ」は、風力発電の反対運動に関係ないので

シートック担当者

は。

会ったことはない。もともと警察に積極的に聞いた話ではなく、向こうから教えてくれた。

——署には頻繁に行くのか。

何かあれば、役に立つだろうと思う。地域住民の反対決議の時など、我々の方から署に顔を出して状況を説明する。

——警察からの情報は有益なものか。

はい。いろんなことを知っていた方が良いと思う。



岐阜県警大垣署とのやりとりを記したシートックの議事録

朝日新聞名古屋本社版